

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
✓ スポーツ
✓ 学校教育
✓ 生涯学習
行政課



長野市と信州ブレブウォリアーズが連携

市内の小・中学生約5,000人が 学校活動の一環として試合観戦

オリンピックレガシー施設での、感動観戦体験 を地元企業と応援



プロバスケット観戦



多様なスポーツ体験



選手交流



地元企業の職業体験

KIDS DREAM DAY (キッズドリームデー)
長野市



#小中学生 #体験学習 #スポーツ観戦

Keyword !

©B.LEAGUE



特徴

Bリーグ初の平日昼間開催と市内全校観戦による
地域教育連携モデル

Bリーグ初の平日昼間ホームゲーム開催

常夜間開催が基本のBリーグにおいて、子どもたちの参加しやすさを重視し、平日昼間（13:30試合開始）に試合を開催。リーグの理解と調整を得て実現された
全国初の事例

観戦・応援・競技体験の一体化設計

応援グッズ配布や試合観戦に加え、ハーフタイムでのフリースロー体験、モルックやポッチャ体験ブースを設置。
観る・参加する・応援するという多層的な体験機会を創出

長野市のスポーツ教育ビジョンと連動

1998年長野五輪レガシー継承を目的に長野市が推進してきた学校観戦事業の一環として、ウォリアーズとの連携が制度化。長野市の教育政策の中核として位置づけられている。

実現までの課題・失敗談

- 1.試合時間の調整
通常リーグ試合時間は夜のため、平日昼間開催にあたり、Bリーグと調整が必要だった
- 2.学校教育現場との調整
試合時間が、給食や下校時間と重なるため、スムーズに観戦するための導線計画や時間設定等が必要となった
- 3.地域で支える仕組みづくり
補助金や助成金ではなく、協賛や寄付等での運営を目指したが、初回は思うように集まらなかった



B.CLUBが発揮するチカラ

企業を巻き込むチカラ

活動に共感する地元企業が多数協賛。子どもたちの観戦機会を地域全体で支援

行政と共に突破するチカラ

教育委員会と密接な連携により、大規模事業を実現。いくつもの課題を乗り越えた



現時点での成果

- 1.バスケットが驚異的な人気に
ミニバス（スポーツ少年団）の人数が、20人から40人に増え、競技普及に貢献している
- 2.良質な教育プログラム
選手の学校訪問や専用のパンフレット等により、子どもたちは事前にルールや応援方法を学習。ルールを学び実践する社会学習の場にもなる
- 3.持続可能な長野市モデル
2年目には、活動の意義がより認められ、企業ブースの数も増え協賛や、企業版ふさと納税等の支援も得られるようになった



ビジョンの
仮説構築

五輪開催都市としてのレガシー・DNAが継承されていない

- ・ 長野五輪世代と未経験世代とで、スポーツ理解や愛着に対してギャップが広がりがつた
- ・ レガシー施設での「上質な観戦体験」を経験したことのない子どもたちが増えた
- ・ 五輪開催都市（長野市）ならではの感動を、地域世代間で共有できていないのではないか

ビジョンの
構築・共有

スポーツを通じて子どもたちの夢や地域への愛着を育む

- ・ 地域の一体感と愛着の醸成
- ・ 子どもたちの夢の芽生えと育成
- ・ 1998年長野五輪のレガシー継承と、元五輪メダリストの萩原市長のスポーツ政策ビジョンに基づく都市像形成

PoC

子どもたちの安全確保や多様な体験機会の提供を実現

- ・ 初回は2024年2月7日、4,765名が参加し長野五輪の開会式日に併せて、市でバス100台を準備
- ・ 観戦・交流・体験の3要素を包括
- ・ 学校関係者・保護者から高評価

事業開発

関係団体の増強や体験ブースの充実、協賛企業の拡大により、地域全体での取り組みに発展

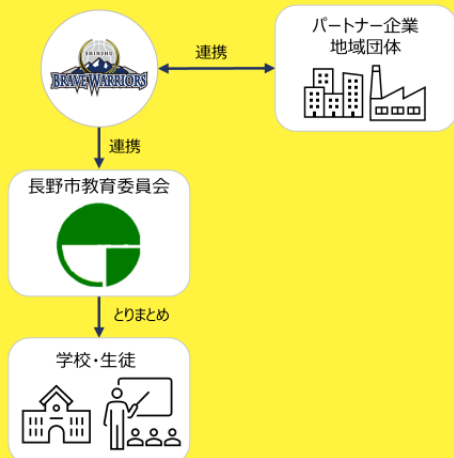
- ・ 令和6年度（2024-2025年）は、年2回に拡大
- ・ スポーツ体験・企業ブース拡充
- ・ 参加者フィードバックで内容改善

事業育成

地域全体への展開や、キャリア教育推進の取り組みも進め、持続可能な運営体制の構築

- ・ 教育的意義が高まり、職業体験やキャリア教育にも広がりを見せている
- ・ 官民協働の継続体制を構築

実施スキーム



実施概要

- 会場：ホワイトリング（長野市）
- 参加費：無料（学校単位参加）
- 対象：長野市内の小・中学生

EY
Shape the future
with confidence

EYはパートナーシップ・コングリゲーション・サービス・グループ・イン・ア・ワンとして、お客様の事業課題を解決するためのソリューションを提供しています。

プロスポーツを教育や地域振興に活用する持続可能な共創モデルを形成



長野市 副市長
松山 大貴 様

ホームタウンNAGANOまちづくり

2022年に市内4つのプロスポーツチームと「ホームタウンNAGANOまちづくり連携推進ビジョン」を策定しました。これは、借りる側、貸す側の関係を超えて対等な関係を築き、オリンピックレガシーを活かしながら官民一体となったまちづくりを進めていくためのものです。

1998年2月7日と同日に

キッズドリームデーは、長野五輪開会式と同じ日に、市内小中学生約5,000人を対象に、信州ブレブウォリアーズの平日試合観戦に招待する企画です。子どもたちにオリンピックの疑似体験として、レガシー施設でのプロスポーツ観戦機会を届けるために、長野市で五輪以来となるバス90台にも及ぶ大移動オペレーションを手配しました。事前学習の段階から教育委員会とも連携し、学校教育の一環として子どもたちは参加しています。

スポーツを活かしたまちづくりの可能性

近年、地方自治体では行政側の政策が行き詰まりを見えているなかで、スポーツは、地域特有の課題なども組み合わせながら、従来の「官」に「民」の領域を超えて、「公共性」と「商業性」が内在する社会的事業機能が注目されます。共創関係を構築し、まさに新たな価値を付加することが重要です。

- ♪ オリンピックレガシー施設「ホワイトリング」を活用し、Bクラブと自治体が連携したスポーツ×まちづくりの先進モデルを構築
- ♪ ただ観戦するだけでなく、事前学習や地域企業ブースにより、子どもたちがバスケットや地域に興味を持つきっかけを創出
- ♪ 長野市・教育委員会・クラブ・企業が密に連携することで、スポーツを核とした地域共創が実現

公民連携のポイント

人材連携

法制度・許認可

財源

土地の所有・管理

施設の所有・管理

運営方針

市民との合意形成

リスク管理

広報・PR



長野市立小学校
教頭先生

地域を知り愛着を育む教育

キッズドリームデー後、バスケットボールを話題にする児童が増えていることを実感しています。子ども達の会話の中にとまらず、昼休みに体育館に行く、以前に比べバスケットボールをしている児童の数が圧倒的に増えていると感じます。

また、教員の中でも、キッズドリームデーを地域を知り愛着を育む機会ととらえ、「総合学習の時間」にプロスポーツチームを題材にして、チームの研究から地域の商店街との関係や、地域との連携の取り組みなどを学習する授業を行っているほです。

実際に街に出て、チームに關係する看板やバナー、商店街で掲げられるポスターを確認する等地域に出て学習する機会にまで発展しています。

B.CLUBとの公民連携の秘訣

教育委員会との連携が非常に重要になるため、チーム側と連携し、学校運営の細かい事情に配慮し、最大限尊重し対応することを心掛けた。企業の皆様にも評価いただき、様々な企画が生まれ魅力が高まっています。



長野市 スポーツ課 金沢 敦さん